

聖書日課 『からし種』 2022.8.21-8.28

<p>5月 28日 (日) I 列王 17章</p>	<p>「女はエリヤに言った。『今わたしは分かりました。あなたはまことに神の人です。あなたの口にある主の言葉は真実です。』(24節)。壺の粉も瓶の油もなくならず養われていても、息子の死と再生を通してしか、やもめは神の真実を知ることができなかった。「見ないのに信じる人は、幸いである」(ヨハネ 20:29)。見ないで信じる信仰を私たちに与えてください。</p>
<p>29日 (月) I 列王 18章</p>	<p>「わたしに答えてください。主よ、わたしに答えてください。そうすればこの民は、主よ、あなたが神であり、彼らの心を元に戻したのは、あなたであることを知るでしょう」(37節)。世界中で多くの人々が恐怖や飢え、不信と憎悪の中におかれている今、わたしたちは心から神を求める祈り、神の平和を願う祈りを献げているだろうか。エリヤの祈りになりたい。</p>
<p>30日 (火) I 列王 19章</p>	<p>「エリヤは起きて食べ、飲んだ。その食べ物に力づけられた彼は四十日四十夜歩き続け、ついに神の山ホレブに着いた。エリヤはそこにあった洞穴に入り、夜を過ごした。見よ、そのとき、主の言葉があった。『エリヤよ、ここで何をしているのか』(8-9節)。主は、常に「ここであなたは何をしているのか」と問うておられるのではないか？ 今、何をなすべきか？</p>
<p>31日 (水) I 列王 20章</p>	<p>「両軍は、陣を張って七日間対峙した。七日目になって戦いを交え、イスラエル軍は一日でアラムの歩兵十万人を打ち倒した」(29節)。小さな山羊の群れのようなイスラエル軍が、地に満ちていたアラム軍を討っていく。それは、主を離れてしまった民が、「主であることを知る」ために、主が取り計らわれた結果。しかし、王は主の戒めを守ることができなかった。</p>

聖書日課 『からし種』 2022.8.21－8.28

<p>6月1日 (木) I 列王 21章</p>	<p>「アハブは、イズレエルの人ナボトが、『先祖から伝わる嗣業の土地を譲ることなどはできない』と言ったその言葉に機嫌を損ね、腹を立てて宮殿に帰っていった」(4節)。主の戒めを守り、嗣業の土地を守るナボトに機嫌を損ね、腹を立てるアハブ。ダビデは欠けを持ちながらも、主に従い、へりくだった。しかし、後の者たちは驕り、主に従う者の命さえ奪ってしまう。</p>
<p>2日 (金) I 列王 22章</p>	<p>「ところが一人の兵が何気なく弓を引き、イスラエル王の鎧の胸当てと草摺りの間を射貫いた。王は御者に言った。『手綱を返して敵陣から脱出させてくれ。傷を負ってしまった』」(34節)。預言者の言葉を軽んじながらも、敵を恐れ、変装して戦場に赴いたアハブ王。無名の兵が何気なく射た矢に射貫かれ死んでしまう。人の謀る事の愚かさを知らされる。</p>
<p>3日 (土) II 列王 1章</p>	<p>「あなたたちはエクロンの神パアル・ゼブブに尋ねようとして出かけているが、イスラエルには神がないとでも言うのか」(3節)。いまだに分からないことだらけの自然科学、用いるには細心の注意が必要な最新技術。しかし、それらを自分たちの知恵や探求心によって自らの力で手に入れた！と誇り、自分自身を神にしてしまっていないだろうか。</p>
<p>4日 (日) II 列王 2章</p>	<p>「主は生きておられ、あなた御自身も生きておられます。わたしはあなたを離れません」(2節)。エリシャは牛を引いて畑を耕している時にエリヤに見出され、油を注がれて後継の預言者となって最後までエリヤを離れず従い続けた。エリヤの中に「生きて働かれる主を見た」のだろう。お互いの間に「生きて働かれる主を見る」教会の交わりとなることができるように。</p>